

**平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業
先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート**

【基礎データ】					
フリガナ					
クラブ名	特定非営利活動法人 さばえスポーツクラブ				
活動地域	福井	都・道 府・県	鯖江市	市・区 町・村	鯖江中学校校区
市区町村の人口	67,642 名	クラブ設立年	2002 年	クラブ会員数	1,300 名
当該地域の小学校の数と児童数	5 校			1350 名	
当該地域の中学校の数と生徒数	1 校			669 名	
主な活動スポーツ種目	クラブスクール・クラブサークル・サークル団体・教室				
フリガナ	みのわ よしみち		クラブでの役職名		理事長
クラブ代表者名	蓑輪 喜通				

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	2000年9月1日
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	
「体操のまち」「生涯スポーツのまち」のキャッチフレーズのもと、スポーツに親しむ人が多い町で、特にソフトバレーボールは160チームほどあり盛んに行われている。しかし、体操協会、体育指導委員、スポーツ少年団、中学校部活動がそれぞれ独自の活動であり、連携があまり見られなかった。又、体育施設も既存のチームが独占しており、新しく始めるにも書類上は満杯の状態であった。	

【 2 . クラブの一般的特徴】

(3) 過去 3 ～ 5 年ぐらいの会員数の推移 (学校区別)									
・2000年	鯖江中学校校区・	1,508	名	ファミリー会員中心(小・中)					
・2001年	鯖江中学校校区・	1,807	名	ファミリー会員中心(小・中)					
・2002年	鯖江中学校校区・	1,878	名	ファミリー会員中心(小・中)					
・2003年	鯖江中学校校区・	1,495	名	募集内容を個人会員中心に変更					
・2004年	鯖江中学校校区・	1,240	名	実質的な実施者が会員であると認識					
(4) 活動種目の内容と数									
野球・柔道・陸上・サッカー・バレーボール・剣道・ホッケー・ソフトテニス・パドミントン・									
体操・卓球・バスケットボール・スポーツ活動・合気道・居合道・フットサル・硬式テニス・									
ショートテニス・レクリエーション・ソフトバレーボール・エアロビクス・整体体操・渡り鳥									
クラブスクール (13 種目) クラブサークル (9 種目) サークル団体 (9 団体 8 種目)									
教室 (3 団体 2 種目)									
計 24種目									
(5) 活動圏域 (校区等の特徴)									
市内人口	男	32,895	名	鯖江中学校校下	中学校	1		669	名
	女	34,747	名	(市内中心に位置している)	小学校	5		1,350	名
	合 計	67,642	名						
	世帯数	20,692	戸						
(6) 定期的な活動内容									
・毎週土日に小中学生を対象として、地域指導者のもとに活動する クラブスクール									
・毎週夜、定期的に地域指導者のもと、成人の人が活動する クラブサークル									
・チームとして様々な大会に出場するために活動する サークル団体									
・有資格指導者のもとと活動する スポーツ教室									
(7) イベント等の不定期的な活動の特徴									
・会員の親睦を深める目的として親子登山や親子スキー教室を実施									
・クラブの活動を会員以外の方に理解していただくためにスポーツフェスタの実施									
・指導者の資質向上のために指導者講習会の実施									
・地域活動への協力として地域の祭りへの協力や参加 (ボランティア、屋台等)									

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)
熱く行動的(中学校教員)
(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか
卒業を機にスポーツから離れてしまう子供たちが多く、成人になってもスポーツに親しむ機会がない。保護者に関しては、子供たちにはスポーツをさせるが、自分達がやろうとしないだけでなく、我が子さえよければの感があり、地域人としてのつながりが薄れている。そこで地域のおじさん、お婆さんが、地域で子供たちを見るまちづくりができればと総合型スポーツクラブを考えた。
(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか
小学校から中・高・大・一般とホッケーを続け、指導者で中学校教員でもあった。続けていく中で止めていく友人や卒業を機にスポーツをやらなくなったひとを何人も見て、むなしさを感じていた。又、全日本クラスで活躍しても、それを公に生かせる場というのが、非常に少なく、何とか人材を生かせる場がないものか常々考えていた。恩師の話で、「トップクラスのプレーヤーはごくわずかの期間しかない。しかし、楽しむとか、指導者というのは、その何倍もある」ということばが現在の自分にある。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き
体育協会常任理事・スポーツ少年団本部長・鯖江中学校PTA役員・元役員 鯖江中学校区小学校PTA会長他役員・小中学校教員・青少協役員
(12) いつ、どこで
・年1回の総会、月1回の理事会、各部会 ・会場は、NPO・江市民交流活動センター 会議室(クラブハウス所在地) 又は、コミュニティルーム(・江中学校の空き教室)
(13) どんな人たちによって
地域のスポーツやまちづくり、子供たちの健全育成に興味関心のある有志22名 特定非営利活動法人格を取得しているので、理事として参加している。
(14) どんな内容を決定しているのか
総会 事業報告と次年度の事業計画の承認、決算報告と次年度予算の承認 理事会 各部会からの懸案事項の決定 部会 マネージメント部会、ネットワーク部会、クラブスクール部会、クラブサークル部会、スポーツメディカル部会 委員会 イベント、財務、総務、コーディネーター会
(15) 意志決定をスムーズにするための工夫
役員会の開催 理事会の前に、各部会からの懸案事項を出し合い、調整する。 理事専用メールでのやり取り(個人PCのネットワーク化を図り理事会の案内等もすべて)

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数		
マネージメント部会	(8 名)	クラブ経営やビジョン、財務、イベントを担当
ネットワーク部会	(8 名)	広報、協賛企業の開拓
クラブスクール部会	(1 9 名)	各種目代表者による打合せ会 (コーディネーター会)
クラブサークル部会	(1 8 名)	各チームの活動状況や、施設調整
スポーツメディカル部会	(3 名)	スポーツドクター
事務局	(2 名)	各部会の調整及び事務
(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと		
市青年会議所出身の方が数多くいるので、マネージメント部門を専属でお願いした。 開業医の先生にも理事として入っていただき、メディカル部門を作った。		
(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと (特徴点)		
経営、広報、スポーツ医学、現場と専門性を生かせるように分業制にした。		
(19) 会費及び財政規模とその支出内容 (16 年度予算)		
ア) 自主財源の獲得状況 (会費や寄付金を含む) 年会費 個人 5,000 円 ファミリー 12,000 円 (保険料含む) → 値上げ対策 平成 15 年度 総収入 14,150 千円 (内 会費 5,640 千円) イ) 財政規模とその主な支出内容 支出内訳 事業費 9,760 千円 管理費 4,040 千円 (指導者謝金 4,310 千円 備品・消耗品 2,090 千円) ウ) 委託事業 (行政等) の有無と今後の期待 (指定管理者制度導入を見据えて) 開放学校管理費 若干 「今後のクラブ運営において施設管理は事業収入の柱となるのではないか。」 との考えから行政と話し合っていかなければと考えている。		

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方	
基本理念	自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い、学び合い、いつでもできる交流クラブ (沢山出てきた意見を要約し、初代理事長がまとめたもので、クラブの原点)
考え方	スポーツは初心者からトップアスリートまで、老若男女が互いを認め合い コミュニケーションを深める手段の1つとしてとても有意義である。
(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ	
	単独
(22) 当該クラブの将来展望 (夢のようなもの)	
	他の校区のスポーツクラブと協力し、市全体がスポーツに親しめるまち、交流のあふれるまちづくり (現在発足に向け準備中)

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無→有る場合はその概要 (住所や所有権など)	
クラブハウス	鯖江市長泉寺町1丁目9番20号 所有権 鯖江市
(24) 練習・活動拠点→当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)	
	鯖江中学校 体育館、武道館、グラウンド、を拠点とし、校区のスポーツ施設も借りている。
(25) 拠点施設の利便性とその矛盾 (困っていること等)	
	学校ということで、子供たちも集いやすい雰囲気であるが、学校教育での理解が 乏しいところが少々ある。 学校開放→モラルの問題→一度中止の経緯あり 検討を重ね再開放 (借りた時よりきれいにして返そう)
(26) 当該地域における公的スポーツ施設 (学校を含む) 数	
学校 (中学校・小学校)	6
公民館 (体育館)	3
市体育施設	2
	利用はクラブで調整

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に） 中学校の空き教室にコミュニティルームがあり、学校といつでも話し合いの持てる場がある。
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等） 市の教育委員会を通して、各種団体と連携することがある。 体育協会、体育指導員、スポーツ少年団と連携し、市民スポーツの日の開催 NPO団体と協力しての祭の開催
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因 多種団体の核となる人に理事や委員になっていただき、協力体制を作っていく。
(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース） 自分達の団体が主体となったイベントに対する協力をあてにすること。
(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット クラブの活動の主旨や内容を理解してもらえらること。 スポーツ関係者以外の人と一緒に活動できることをわかってもらえる

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例 会員 スポーツイベントの開催 会員外の人が自由に参加し、活動内容を理解してもらうイベント スポーツクラブ説明会 地域に出向き、いろいろな方々に、スポーツクラブ説明会を開く 指導者 口コミで、どこにどのような指導者がいるか聞き、個々に話をしていく。（170名）
(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例） 会 員 強引な勧誘 指導者 指導者間で協力関係のもてない人を入れる。批判的な指導者。子供たちを長いビジョンで育てることを考えない人。（大会のための指導に走る人）

(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容
・さばえスポーツクラブ事業全体が、助成によって潤っています。 ・専従事務職員の確保 ・有償ボランティア指導員の拡充 ・備品、消耗品等の整備 ・クラブ間交流（他のスポーツクラブ交流）がより深まった。（半田市 スポーツクラブ Youki） ・広報誌の充実 15年度 校下全戸配布 2回 （助成金がなくなっても運営できる方向を模索中）
(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）
・事務局の確立により会員登録の確実性（いつでも登録、連絡ができる） ・会員が増えても練習できる備品・消耗品の補充 ・クラブ間交流により、参加ができるイベントが増え、会員のメリットが増えた。 ・広報誌の充実により、会員だけでなく会員外にも知れるようになった。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い
当初、マネージメント部会、ネットワーク部会、コーチング部会であったが、それぞれの部会での懸案事項が多く、会議の時間も大変長かった。現在はより分業制になったので、会議等もスムーズに流れるようになってきた。
(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由
理事全員が、運営や組織に対して真剣に考え、よりよい方向を出そうと議論し、意見を出し尽くすまでいったことと、当時の理事長のリーダーシップ
(38) 成功したと思われる決定的な要因
現在の問題や、目の前のイベントだけの話でなく、将来構想も視野に入れた内容を、常に理事会で議論し、少しずつでも実現に向けて進んでいること。
(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか
立ち上がったクラブへの支援は、現在は行われているが、今後どのようなになるかわからない。 今後も支援していただけるようお願いしたい。又全国にもっとクラブが立ち上がり、どこへ行っても認知されるようになって欲しい。 資金援助、管理運営面も含めた、継続していくためのノウハウの指導等。よろしくお願いします。
(40) 現在、悩んでいること、困っていること
地域の指導者と学校指導者との意思の疎通 受益者負担意識の確立（スポーツは、「無料」の意識の改革） 活動拠点の確立（行政の安定）